

WATER LINE SERIES



軽巡洋艦長良について

第一次大戦後、欧米諸国は海戦の勝敗を決めるのは強力な大砲を持つ巨大な戦艦だとする大艦巨砲主義のもと、海軍力の整備に力を入れていました。そんな中、日本海軍も戦艦8隻、巡洋戦艦8隻からなる八・八艦隊と呼ばれる強力な艦隊を計画していました。この八・八艦隊に加わって主力部隊の直衛や前衛、偵察や哨戒を行うために計画されたのが長良をはじめとする5,500トン型と呼ばれる軽巡洋艦です。また、海軍は水雷戦隊の旗艦としての軽巡洋艦の任務も重視していたため、強力な砲力、魚雷兵装、旗艦としての充分な指揮通信施設、偵察用の航空兵装、そして駆逐艦とともに行動できる高速力を備えて登場することとなつたのです。

これら5,500トン型は、イギリスのアレスーサ

After the First World War, naval forces around the world began competing with each other in constructing larger and more powerful battleships. This was based on the "Big-Guns" principle of the time, where battleships with large caliber weapons would be the main force in any future naval engagements. The Japanese Navy began modernizing their aging fleet of ships under a program known as the "Eight-Eight" squadron. With this program, they planned to produce eight new battleships and eight new battle cruisers. As the new squadron would also require an escort of light cruisers, 5,500 ton vessels were planned for production. The Nagara light cruiser was launched on 21 April, 1922 from the Sasebo

型に範をとったといわれる天龍型の拡大改良型として、3型式14隻が建造され、長良はその第2グループにあたる長良型の一番艦として大正11年4月21日に佐世保工廠で竣工しました。

スタイルは同じくイギリスの後期C型、D型をモデルにしたといわれ、直線的でスマートな船体や3本の煙突、スプーンバウと呼ばれる艦首など、英國風の獨特のものでした。とくに吃水以下が丸々大きくカーブしたスプーンバウは、当時の日本海軍が艦隊決戦用として大きな期待をかけていた1号機雷との関係から採用された戦術上重要なものでした。これはワイヤーで連結された機雷で、航行する艦船がこれを引っかけると爆発するようになっており、このワイヤーをのりきるために考えられたのです。また、5,500トン型の各艦も後部甲板に1号機雷敷設用の設備を持っていました。

船体は、高速力を追求して細長いものとされました。また当時の戦艦長門、陸奥をも上回る9万馬力の大出力機関を搭載。公試運転では駆逐艦を除く当時の日本海軍の軍艦としては最も速い36ノットの速力を記録しています。

兵装は、主砲に14センチ砲を7門、魚雷兵装は61センチ連装発射管を4基搭載していましたが、

太平洋戦争中に強力な酸素魚雷が発射できる4連装発射管2基に変更されています。また12.7センチ連装高角砲や対空機銃など、対空武装の強化も行われ、最終的に主砲は5門となっています。

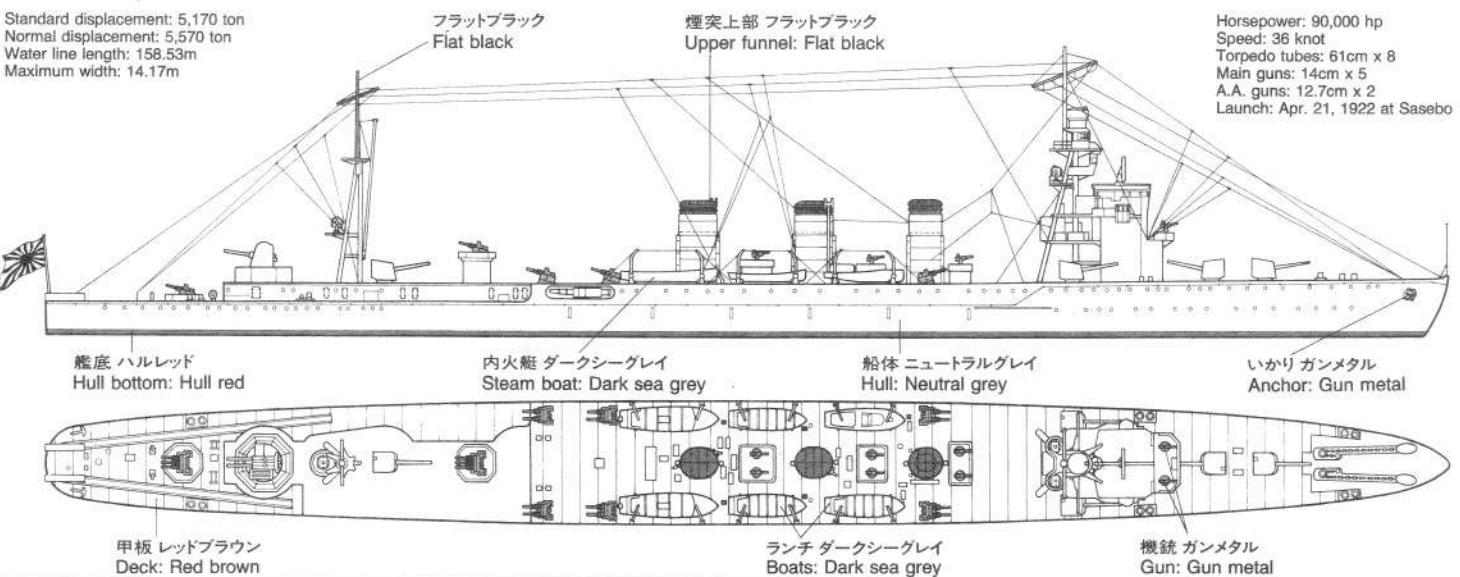
5,500トン型軽巡は太平洋戦争開戦時にはすでに旧式化していましたが、高速力や改装をうける余地の大きい余裕のある設計で重用され、さらに後継となる艦が登場しなかったことによってこの戦争を戦うこととなりました。

昭和16年12月、第3艦隊第16戦隊の1艦として開戦を迎えた長良はまずフィリピン攻略作戦に参加し、17年1月からは蘭印作戦に参加します。その後、第1航空艦隊第10戦隊旗艦となり同年6月のミッドウェイ海戦、10月の南太平洋海戦に参加。11月の第3次ソロモン海戦では、魚雷による協同攻撃で軽巡1隻、駆逐艦4隻を撃沈しています。その後は主に輸送任務に就いていた長良ですが、昭和19年、鹿児島から沖縄への第2航空艦隊の人員、物資の輸送が最後の任務になりました。8月7日、佐世保に向けて鹿児島を出港した長良は、アメリカ潜水艦クローカーの雷撃をうけて沈没。22年にわたるその生涯を閉じたのです。

モデルは最終時の長良の再現です。

so late at the outbreak of the Second World War, the superb cruising performance and agility of the Nagara enabled her to remain active. In December 1941, she was assigned to the 3rd Fleet, 16th Squadron of the Japanese Naval Fleet, and participated in operations around the Philippine Islands. During the battle of Midway in June 1942, the Nagara became the flagship of the 10th Squadron of the 1st Naval Air Fleet. After playing several important roles during numerous naval operations, the Nagara was relegated to serving as a transport during the latter part of the war. An inglorious but still important duty. In August 1944 she was sunk by an American submarine on her way to Sasebo.

Standard displacement: 5,170 ton
Normal displacement: 5,570 ton
Water line length: 158.53m
Maximum width: 14.17m



NAGARA長良

★お買い求めの際、また組み立ての前には必ず内容をお確かめ下さい。万一不良部品、不足部品などありました場合には、お買い求めの販売店にご相談下さい。なお接着剤は別にお買い求め下さい。

READ BEFORE ASSEMBLY.

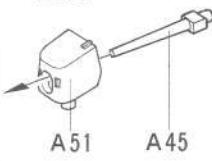
★Remove parts from sprue using a cutting tool.

★Use plastic cement and paints only (available separately).

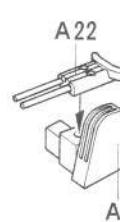
★Use cement sparingly and ventilate room while constructing.

1 主砲塔 Main gun

5個
Make 5.



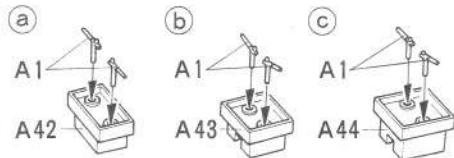
2 高角砲 A.A. gun



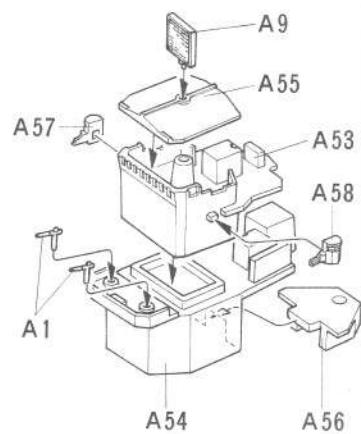
3 エントツ Funnels



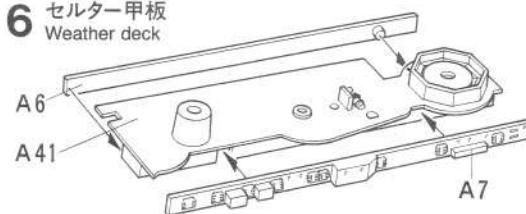
5 機銃座 MG Mount



4 艦橋 Bridge



6 セルター甲板 Weather deck



7 船体 Hull construction

船体内側から穴をあけておきます。
Make hole from inside.

